



日本の農業を自然栽培オーガニックに変えていく活動に参加しませんか!!

日本の農業産出額1位の田原市、6位の浜松市、9位の豊橋市。この地域は通年でトップクラスの農業地帯です。しかし、残念ながら農業、抗生物質、成長ホルモンを使うことへの賛成はできかねます。1990年代世界はオーガ

ニックに移行して久しい状況です。いつからか中国産オーガニックは安くて安全に変わった。(有機農地約222万ha世界7位)東京オリンピックでも選手に日本産食品は食べられないと報道され、現在も何故か農産物を輸入して、生産性をあげる日本の現実。おかしいですね。WAC農園は、2007年から豊橋有機農業の会へ所属しながら畑作を中心に自然栽培を続けています。農業を使わない農業への移行を、今農業産出額トップのこの地域だからでき

ることにトライしませんか。畑と田んぼは自然栽培へ、牛、豚、鶏はゲージ飼から放牧や平飼いへ業態移動が今必要とされています。安心安全な食料を、地産地消でまず、地元東三河に生活する人々を健康にしていける。さらに、多く



の方にこの地域に食べにきて頂けるようにしていきませんか。多くの共感できる方は是非活動に参加してください!



★リクルート1 障害者就労継続支援B型所属 10名程度 当初若かった障がい者メンバーも高齢化で別の部署に転籍したり、規模拡大によるメンバーの補充になります。B型ですが応募によってはA型工賃も可能です。 ★ボランティア 土曜日祝日歓迎 登録制で月2日以上参加できる方 空いた時間に、WAC農園の活動をサポート頂ける方

★リクルート2 農業支援員、農業指導員 3名程度 障害者支援の経験のある農業に興味のある方又は自然栽培の農業指導ができる方 ★プロボノ 農業技術やIT技術を生かして外部から専門性を生かして参加いただける方 「とよはし・チャレンジド・アスリートカップ」 11月2日(土)向山大池公園開催!参加者募集中!

第15回とよはし音楽祭本選は来年4月12日(土) 穂の国とよはし芸術劇場プラットに決定しました!

通常開催の豊橋市民文化会館大規模リフォーム中のため、会場を検討していましたが、4月開催で日程が決定しました。

日時 2025年4月12日(土) 12時開場 13:00~16:00 本選コンペティション 会場 穂の国とよはし芸術劇場プラット アートスペース



ART FES 2024 応募期間中です。地元も含めてお知合いの多くの障がい者の方にお知らせください。

「第6回トヨハシリュウアートコンテスト」 対象全障がい者 応募期限12月24日 「第15回とよはし音楽祭」 対象精神障がい者 応募期限11月30日

「第12回一枚のはがきアートコンテスト」 対象全障がい者・障がい児 応募期限10月31日 エントリーシートなど詳細は専用リーフレット及びwac-net@hotmail.co.jpへお問合せください。

輝け未来セミナー参加者募集中!!

障がい者、高齢者などハンディキャップを抱える人へのための「働く」「住まい」「生きる」を一緒に考え解決していきます。本当の自立とは何か?自立していくプロセスをお伝えします。本当に大切な命を輝かせましょう! 日時 9月24日 10月15日 セミナー14:00~15:30 相談会15:30~17:00 対象 障がい者、高齢者、生活困窮者、外国人、シングルマザー 会場 WAC アグリカフェ多目的室 定員10名 参加費 無料(事前予約制) ※詳細は専用リーフレット又は、お問合せください。(0532-52-4315)

鈴木晶子特別展「さららあき」10/5~10/31

1979年豊橋生まれ 15歳中学生のころ絵を始める。18歳で本格的な活動を開始。車いすの作家。モノトーンから最近ではオレンジ、赤、ブルー、黄色などフュージョンさせる作品に、感動したり、感

Calendar table for September and October 2024, listing events like '高田 誠作品展', 'アグリカフェ ギャラリー', and '鈴木晶子特別展'.

コラム VOL.75 「生まれ変わった地域!! 豊橋・東三河まちづくりデザイン会議」

極限の暑さなのか。那覇が31°Cで名古屋、東京が38°C。中禅寺湖では熊が泳ぎ、農家の野菜をむさぼり、旅館の天窓から侵入した熊は厨房を荒らし、森の中に逃げ去る姿がフォーカスされた。東京はヒートアイランド、雨が降らない

の出来事が次々起こるこの現象に、人々の思考はついて行っていない。関東ロームの大地は畑作に恵まれ、そば、サツマイモ、ニンジン、大根、ゴボウ、里いもなど土物の栽培が盛んであった。利根川があり、渡良瀬川、荒川・

安全安心な自然食ランチをお楽しみ下さい

Advertisement for WAC agricafe, including a menu with items like coffee, tea, and lunch, and contact information.

動物たちとは境界があり、お互いに自然の中で共に生きていくことを知っていた。しかし、今は人の住む範囲はどんどん広がり都市化して、東京は鉄とコンクリート、アスファルトの無機質な空間が果てしなく広がっている。

考古学の世界では、縄文時代が注目される。私たちの日本人の本質である日本文化は、旧石器時代(5万年前から土器が見つかった1万5000年前)に確認することができる。遺跡の数も世界一の約1万カ所以上あり、なかには確

定されていないが12万年前のものもある。そして4万年前には、北海道や東北を中心に、日本人は日本列島に住み、集落も1万カ所前後あった。各地から渡来した人たちは入植した土地での生活を始める。この当時の日本の遺跡は、肉食

多摩川がある。農家が点在し、農地がただ広がる。その先の森は、三国山脈や足尾山地、関東山地につながる。森と畑は降った雨の保水地であり、植物たちの育てていく糧であり、気温を調節する機能を有していた。ひととシカやクマなど

いる。昭和から100年、戦後(1945)から80年のターニングポイントにある。今も経済が政治を覆う時代が続いている。あてかわれたモノというおもちゃは、車であり、衣食住であり、利便性であり、お金で買え

るモノ、一時の満足は得られても、未来の子どもたち、孫たちに今のままで良いのかといわれると答えはノーとなる。私たちの国をとりもどしていく必要がある。それには、国として自立した国になること。そして、私

して解決していくことが重要になる。かつて、この日本列島の創世記に、部落を創っていった熱い人々が原点にある。国の制度は三権分立で議院内閣制を取り、地方自治では、市長を公選することからも、大統領制

に近い存在にあるが、市長へ直接、問題課題を抱える市民の声が届く仕組みにはなっていない現状がある。市議会議員に問題があるということではなく、すごいスピードで社会が変化する時代に、今の議会でのスピード感

が伴わないことが原因と考えられる。この現実を顧み、私たちは東三河をひとつの地域と考え、市民による市民のための豊橋・東三河まちづくりの集い「豊橋・東三河まちづくりデザイン会議」を起草した。従来まちづくりという

と、空間デザイナーや建築士の仕事のように感じ、私たちが、まちづくりに係る市民一人ひとりから行政や企業・団体などすべてのステークホルダーがクリエイターとして参加して初めてできる仕事と

捉えている。地域の問題意識をもつ人々が集まり、この地域の未来を考え、地域に暮らす人々や働く人々が交流し意見交換する機会をつくる。既存概念や規制にとらわれずに自由闊達な意見交換ができる場の創造にな

く広がっていく。心の不安や抱える悩みを世代と公的機関を越えて自分たちの意見として提言する。きっと何かが見つかるはずだ。私たちは、3つの大きな概念で描く。1. 未来のまちはダイバシティ「誰

海外へとお金が東三河から出ていってしまう。地場企業を含めて特に衣食住、伝統品などは、東三河の地元企業を見直し育成を図ること。さらに、ものづくりからの展開で、IT情報産業のオリジナル拠点づくりをする。その中

から10年後20年後のグローバル企業を生み出していく。3. 東三河人口100万人をめざす。循環型経済が地元の雇用を増やす。国の人口減の政策に合わせるのではなく、今後、世界は国家間から都市間、地域間の

交流が中心に、ひとの息づかいが、感じられる共生社会に向かう。ひとにやさしいまちをイメージしてみようだろうか。日本の社会は、小さな集落が長い年月をかけて、あえて戦いを好まず、みんな生きる道を歩いてきた

残っている。次の世代のために、その次の世代のために、もう一度地域を創りなおしていくことではありませんか。過去のダイバシティを未来のダイバシティにつなぐ。豊橋市、東三河が一体となり未来をデザインしていく

加藤政実 ※詳しい情報は豊橋・まちづくりデザイン会議、市民のためのワークショップ専用リーフレット参照ください。